

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	61	—	事業名	中央図書館事業	担当部課	教育部中央図書館
------	----	---	-----	---------	------	----------

基本情報	総合計画	基本方針	4	文化をみがき、人が輝くまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	2	住民の自主的な生涯学習活動を支える	款	9	教育費
		施策の進め方	—		項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	—		目	4	図書館費
		政策分類	—		大事業		中央図書館事業
	その他(関係法令、要綱等)		図書館法				
事業開始の背景、経緯等		町制20周年記念事業の一つであり、市民の生涯学習活動を支え、市民が憩い集う場として、平成4年に図書館事業を開始した。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 図書館法に基づく業務。図書資料を収集、整理、保存し、市民に提供する。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民を始めとする図書館利用者。貸出対象は、市内在住、在学、在勤、在園者と広域地区利用者(瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊田市、名古屋市長久手区、守山区)					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の教養の向上、調査研究の円滑な進捗、レクリエーション活動の充実等を意図する。					
	事業を構成する事務事業	① 中央図書館運営事業	② 中央図書館管理事業	③ 講座等企画事業	④	⑤	⑥

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			159,291	89,493
決算						144,189	86,851	
人件費(B)	千円	決算			37,199	34,531		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			181,388	121,382		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 市内利用者の貸出点数	点	目標	293,000	291,327	296,266	308,110	320,400
			実績	288,443	298,223	314,331	310,802	
	B 子ども読書活動推進計画事業の進捗率	%	目標	—	60	65	70	80
実績			—	60	66	68		
C		目標						

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 長久手市民への個人貸出の貸出総点数の増減が、長久手市民の利用状況を端的に表しているため。

B 子ども読書活動推進計画の各事業の達成状況の割合から計画全体の進捗率が判断できる。

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 県、近隣市の貸出点数全体の増減(H27からH28年度)は、県が約1%増加、瀬戸市は約1%減少、尾張旭市は約3%減少となった。(長久手市0.6%減少)
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 貸出点数は、H28年度はH27年度よりも約1%減少となったが、読書手帳の配布、布絵本などのバリアフリー絵本の導入など、新たなサービスを導入し、図書館サービスを拡大した。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後、さらにPRに努め、サービスの拡大が貸出点数増加につながるようにしていきたい。また、図書ボランティアの活動が図書館運営に大きな役割をはたしているため、今後もボランティアの確保と育成が課題である。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 最も利用者層の少ない中高生向けの図書資料の拡充を目指す。長期的に見て、児童サービスの拡大が一般書利用の増加につながるため、第2次子ども読書活動推進計画を策定し、児童サービスの充実を図り、利用者層の均衡化を通して全体の利用拡大を目指す。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) H34年(第2次子ども読書活動推進計画から5年後)までに、年齢別利用者統計における中高生層の値を3倍化する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		中央図書館事業									
番号	①	事務事業名	中央図書館運営事業	款	9	項	4	目	4	大事業	3	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成4年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市民を始めとする図書館利用者に対し、図書資料を収集、整理、保存し、提供する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			67,292	66,044	71,506
		決算			75,616	62,152	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
市内利用者の貸出点数	点	目標	293,000	291,327	296,266	308,110	320,400
		実績	288,443	298,223	314,331	310,802	
図書ボランティア登録者数	人	目標	—	50	60	70	80
		実績	—	56	73	76	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

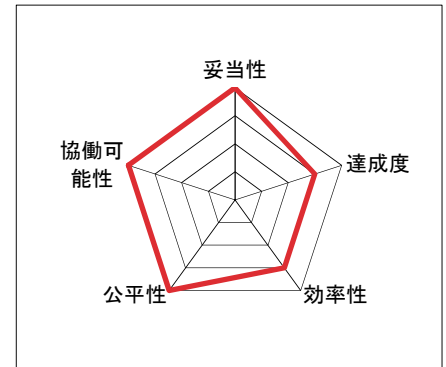
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
貸出冊数の増減は、全国的には過去5年間で減少傾向が続いていたが、H28年度は約2%増加となった。貸出数の増加を目指し、子ども読書活動推進計画に取り組み、学校連携事業を始め、各事業を推進していく。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
個人貸出点数の増加を図るため、H28年度から新たに導入した障がい者向けバリアフリー資料の増加等、司書による魅力ある選書に努める。また、子ども読書活動推進計画はH30年3月末で第1次計画が終了するため、H29年度に第2次の計画策定を行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
バリアフリー絵本の導入により、布製絵本、点字絵本の資料などの蔵書を新たに増やした。乳幼児層の貸出が前年度よりも約3%増加した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
多くの事業で図書ボランティアが活躍している。市民の生きがい作りの場として、事務局がボランティアをサポートし、図書館でのボランティア活動が市民に定着している。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
学校連携事業の中央図書館からの団体貸出では、貸出冊数が年間1万冊程に増加した。調べ学習の推進、学級文庫の維持を図るため、学校との協力体制を再検討する必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
<ul style="list-style-type: none"> 第2次子ども読書活動推進計画を策定し、児童サービスの事業の拡大を図る。 市民ボランティアが図書館事業に参加し、生きがいづくりの場の提供を推進する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		中央図書館事業									
番号	②	事務事業名	中央図書館管理事業	款	9	項	4	目	4	大事業	3	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成4年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市民を始めとする図書館利用者が快適に施設利用できるよう、図書館設備の管理・運営をする。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とし、市民の読書活動の活性化を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			91,779	23,086	20,440
		決算			68,423	24,523	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
コピー利用件数	件	目標	8,500	8,840	9,200	9,600	8,000
		実績	8,750	9,069	9,851	7,981	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

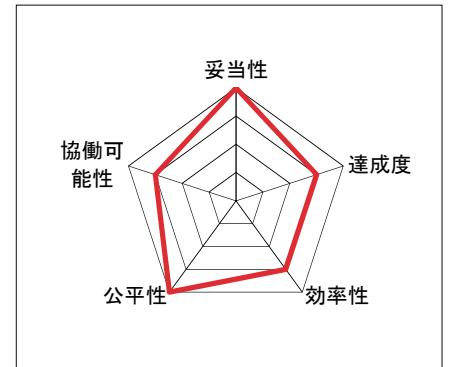
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
図書館が建設されてから25年目となり、建物の老朽化が目立つ。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
建物の管理維持に必要な全ての修繕箇所を把握するための必要な予算措置を検討した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
利用者の安全・防犯を目的に館内に新たに設置した防犯カメラは、録画機能を活用し、現場の確認に役立った。市民の安全を向上した。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
経年劣化による修繕が必要とされる部分が増えたため、建物全ての修繕箇所を詳細に把握する必要がある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館建物を長期的に有効活用するため、建物診断ができるように計画していく。 ・ 市民の安全・防犯体制が強化されるように防犯カメラ設置の他にも掲示内容の見直しなど、対策を検討していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		中央図書館事業										
番号	③	事務事業名	講座等企画事業		款	9	項	4	目	4	大事業	3	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成4年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市民を始めとする図書館利用者に対し、図書館講座や企画展示を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	生涯活動の場として市民が図書館を活発に利用するとともに、市民が図書館事業へ参加できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			220	363	363
		決算			150	176	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
講座参加者数	人	目標	30	30	30	40	40
		実績	34	36	30	60	
企画展示回数	回	目標	5	4	4	4	4
		実績	2	4	3	6	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

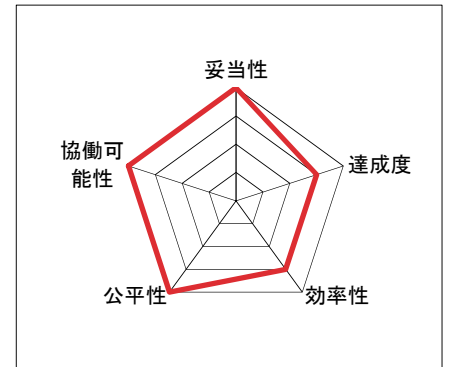
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
他課の企画事業などに「図書紹介」という形で図書を展示するコラボレーションの機会が増えた。本に親しむ機会を提供することができるため、図書館事業の活性化につながる。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
図書修理ボランティアの増加を目指し、中央図書館と連携する市内小中学校及び児童館の図書修理も増やす。
(何をどのような状態に改善したのか)
図書修理ボランティア数は増加しなかったが、上級者レベルが増えた。そのため、小中学校、児童館などの破損状況の激しい本も修繕対象とすることができるように改善した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
映画企画（文化の家）、戦争体験をテーマとした平和行政事業（行政課）などに中央図書館から「本の展示」という形でコラボレーションすることができた。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
講座種類、企画展示回数を増やしていくことを検討したい。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
経験年数の長い図書ボランティアや職員が講座講師となることを検討し、講座回数が増えるようにしていく。